

レポート②

企業との連携した施設外就労②

～共同運営事例～

令和2年2月16日（土）

社会福祉法人名張育成会

レインボークラブ 多原智子

顔が見える関係づくりとその大切さ

伊賀圏域自立支援協議会「就労部会」での協働

平成26年度 就労アセスメントマニュアルの作成

平成31年度 就労アセスメントマニュアルの見直し

→この作成を通して、就労支援の考え方やお互いの事業の状況等の相互理解ができた。



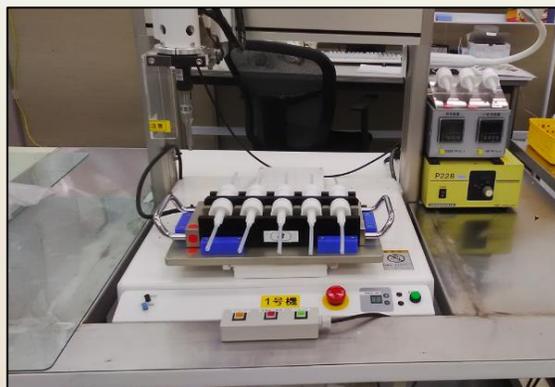
- 維雅幸育会さんより、サラヤさんでの施設外就労、そして雇用も考えてくれますが、一緒にしませんかと声かけてもらいました。
→レインボークラブは、この頃移行支援事業を開始して数ヶ月経過しており、実習先や就労先を探していたためとてもありがたいお話でした

仕事をシェアすること

お互いに初めての試み

- ・作業を覚えるため、まず職員のみ作業についての教育を受けた
- ・開始にあたり、作業日数と時間調整
 - 他の施設外就労先もあり、毎日行くことは難しく週2日からスタート
- ・全工程を初めからするのではなく、できる工程からスタート！
 - 1工程から始め、他事業所の利用者の方と同じ空間ですることにより
まず慣れて環境適応することを優先
- ・施設外就労と同時並行で就労についても進めており、三重県障害者委託訓練事業
を利用し、2名が就職に向けて訓練開始
 - 2名とも就職し、現在就労定着支援中

仕事内容 ポンプカバーの溶着作業工程



完成品



今後の展開について

2 法人が仕事をシェアすることで目指す方向

1. 障害の種別に関わらず、誰もが働きやすい職場づくり

びいはいぶは知的障害の方が多く、レインボークラブは精神・発達障害の方が多い。お互いの支援の方法が異なり、仕事を通して職員らが学び合い、障害を持つ人にとって働きやすさとは何かを考え、また協働して生産量を上げる取り組みを進めていきたい。

2. 施設外就労を通じて、障害者の理解を深めるとともに 障害者雇用の促進

施設外就労で障害を持つ人の働き方や作業能力を見てもらい、企業の生産性を上げる一躍を担える人材であることをアピールして就職へつなげたい

最後に…

- 人の力を借りることも自分たちの力であること
- 自分たちの事業所の限界を知り、他機関と繋がり、そして協働することで自分たちの成長にもつながる

ご清聴ありがとうございました。

そして、維雅幸育会の皆様に感謝します。
ありがとうございました。